

2023年度第2四半期 決算説明資料

2023年11月9日
株式会社 神戸製鋼所
証券コード 5406

KOBELCO

1. 業績総括
2. 2023年度 第2四半期業績
3. 2023年度 業績見通し
4. 参考情報

1. 業績総括

2023年度第2四半期業績

(対前年同期)

- 自動車の生産台数は、**半導体不足影響の緩和**などにより前年同期比で増加したものの、**IT・半導体分野における需要の減少**や、**建築・土木分野**などの需要低迷などにより、**鉄鋼・アルミ板**の販売数量は減少。
- **経常利益**は、**鉄鋼・アルミ板**での販売数量の減少、**在庫評価影響の悪化**、**建設機械**での**エンジン認証問題**に関する補償金収入の剥落があったものの、**鉄鋼メタルスプレッドの大幅な改善**や、**電力**での**神戸発電所4号機の稼働**や**燃料費調整の時期ずれ影響の改善**、**売電価格に関する一過性の増益影響**（売電価格の指標となる石炭の輸入貿易統計価格と当社購入価格の差異）などにより、**前年同期比497億円増益の916億円**（過去最高益）。親会社株主に帰属する当期純利益は、**経常利益の増益**に加え、**子会社において固定資産の譲渡益**を計上したことなどから、**前年同期比523億円増益の803億円**（過去最高益）。

2023年度通期業績見通し

(対前回見通し)

- **鉄鋼メタルスプレッド**は概ね**前回並み**を見通すものの、**建築・土木分野**の需要減少や**IT・半導体分野**の需要回復の一部遅れなどに伴う**素材系事業**での**販売数量の減少**、**欧州・東南アジア**を中心とした**建設機械**での**販売台数の減少**を余儀なくされる見通し。一方、**需要が堅調な機械**においては、**受注高の増加**を見込み、過去最高を記録した**前期並み**となる見通し。
- **経常利益**は、**素材系事業・建設機械**での**販売数量の減少**があるものの、**機械**での**サービス案件の増加**や**受注採算の改善**、**建設機械**での**円安**による**輸出採算の改善**、**電力**での**売電価格に関する一過性の増益影響**、さらには**在庫評価影響の改善**などにより、**前回並みの1,450億円（ROIC6.9%）**程度の見通し。なお、親会社株主に帰属する当期純利益についても、**前回並みの1,200億円程度**（過去最高益）の見通し。

(単位：億円)

	2022年度実績		2023年度 見通し(前回)	2023年度見通し(今回)		前年度比増減		前回は増減
	上期 ①	通期 ②		③	上期実績 ④	通期 ⑤	④－①	⑤－②
売上高	11,696	24,725	25,900	12,538	25,700	+841	+975	△200
営業損益	197	863	1,650	921	1,650	+723	+787	－
鉄鋼アルミ	223	419	330	207	255	△15	△164	△75
素形材	14	9	35	△0	20	△15	+11	△15
溶接	8	28	40	15	40	+7	+12	－
機械	※1 50	※1 157	220	103	260	+53	+103	+40
エンジニアリング	9	41	80	62	80	+52	+39	－
建設機械	100	123	130	50	110	△49	△13	△20
電力	△13	245	660	474	700	+488	+455	+40
その他	※1 24	※1 48	45	17	35	△6	△13	△10
調整額	1	△7	△90	△15	△50	△16	△43	+40
経常損益	418	1,068	1,450	916	1,450	+497	+382	－
在庫評価影響を除く	193	828	1,460	961	1,415	+767	+587	△45
特別損益	△26	△87	270	※2 277	277	+303	+364	+7
親会社株主に帰属する 当期純損益	280	725	1,200	803	1,200	+523	+475	－

※1 (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更。 ※2 子会社における固定資産の譲渡益。(8月4日プレスリリース資料参照)
これに伴い、対比元の2022年度実績の業績数値を再集計。

（ ）は需要変動の影響を受けるユニット

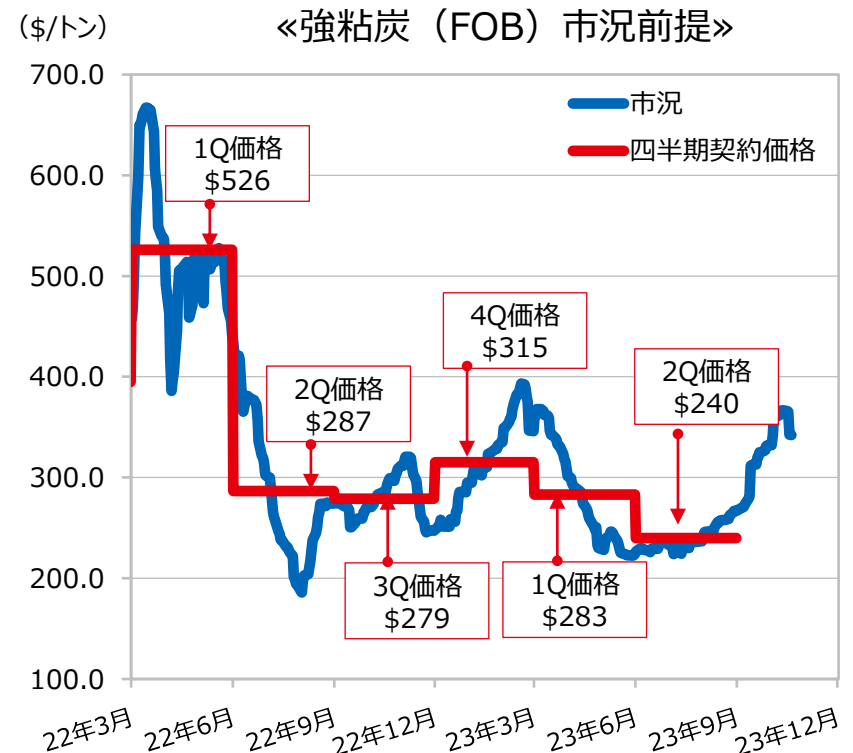
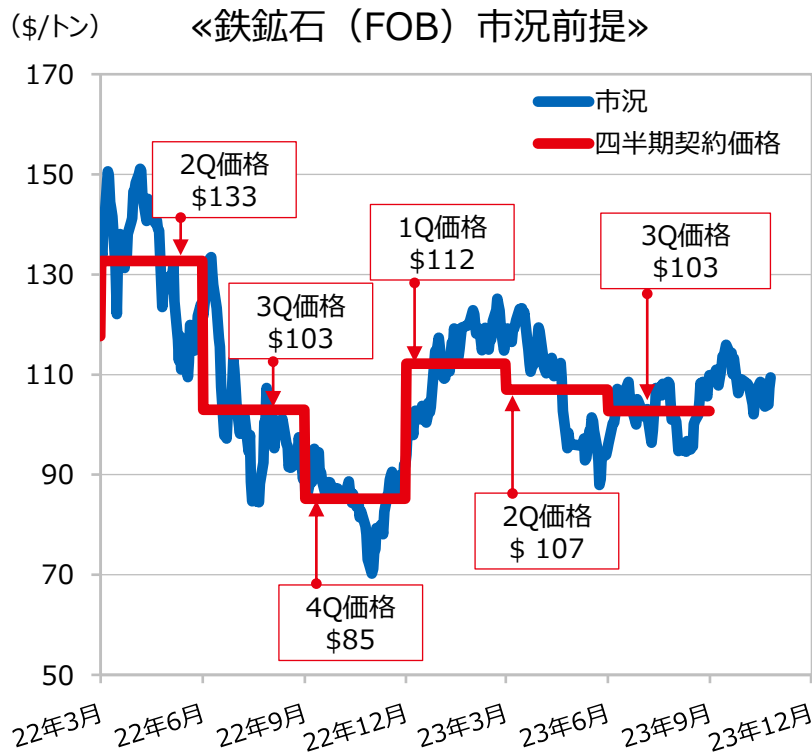
<p>自動車</p>	<p>(鉄鋼、アルミ板、アルミ押出、サスペンション、銅板、鉄粉、溶接)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内生産・海外生産ともに前回並みにて想定。 <p>《日系自動車メーカー生産台数（海外含む）の想定》 * 2019年度平均比</p> <table border="1" data-bbox="368 358 2003 525"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="4">2022年度実績</th> <th colspan="4">2023年度前回</th> <th colspan="4">2023年度今回</th> </tr> <tr> <th>1Q</th> <th>2Q</th> <th>下期</th> <th>年度</th> <th>1Q</th> <th>2Q</th> <th>下期</th> <th>年度</th> <th>1Q</th> <th>2Q</th> <th>下期</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>増減率</td> <td>△22%</td> <td>△10%</td> <td>△12%</td> <td>△14%</td> <td>△14%</td> <td>△9%</td> <td>△7%</td> <td>△9%</td> <td>△11%</td> <td>△10%</td> <td>△7%</td> <td>△9%</td> </tr> </tbody> </table>		2022年度実績				2023年度前回				2023年度今回				1Q	2Q	下期	年度	1Q	2Q	下期	年度	1Q	2Q	下期	年度	増減率	△22%	△10%	△12%	△14%	△14%	△9%	△7%	△9%	△11%	△10%	△7%	△9%
	2022年度実績				2023年度前回				2023年度今回																														
	1Q	2Q	下期	年度	1Q	2Q	下期	年度	1Q	2Q	下期	年度																											
増減率	△22%	△10%	△12%	△14%	△14%	△9%	△7%	△9%	△11%	△10%	△7%	△9%																											
<p>IT・半導体</p>	<p>(アルミ板、アルミ鋳鍛、銅板)</p> <ul style="list-style-type: none"> ディスク材は前回並み（需要回復遅れに伴い前期比で大幅に減少。下期以降緩やかに需要は回復するが、本格的な回復は来期以降になると想定）。 半導体製造装置向けでは、需要調整局面が継続し、前回比で減少。 																																						
<p>造船</p>	<p>(鉄鋼、鋳鍛鋼、溶接)</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回並み（2023年度の竣工量は、人手不足が顕在化する中、前期比で増加想定）。 																																						
<p>航空機</p>	<p>(チタン、アルミ鋳鍛)</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回並み（需要は回復基調にあり、前期比で増加想定）。 																																						
<p>飲料用缶</p>	<p>(アルミ板)</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回並み（人流の増加に伴って需要は回復し、前期並みに推移すると想定）。 																																						
<p>建築・土木</p>	<p>(鉄鋼、溶接)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人手不足から工期の後ろ倒しが続いており、前回比で減少。 																																						

鉄鉱石： 3Q価格は\$103で決着済み。4Q価格は**3Q価格並み**の水準にて想定。

強粘炭： 2Q価格は\$240で決着済み。下期価格は**2Q価格から一定程度の反転**を想定。

一般炭： 高水準だった市況は5月以降下落基調となったが、7月以降は市況が反転し、9月は\$160前後で推移。下期価格は 9月の市況をベースに想定。

原料市況



2. 2023年度 第2四半期業績

【売上高】 12,538億円（前年同期比+841億円）

- 素材系事業や建設機械における販売価格改善の進展、機械・エンジニアリングでの受注案件の進捗、電力での神戸発電所4号機の稼働などにより増収

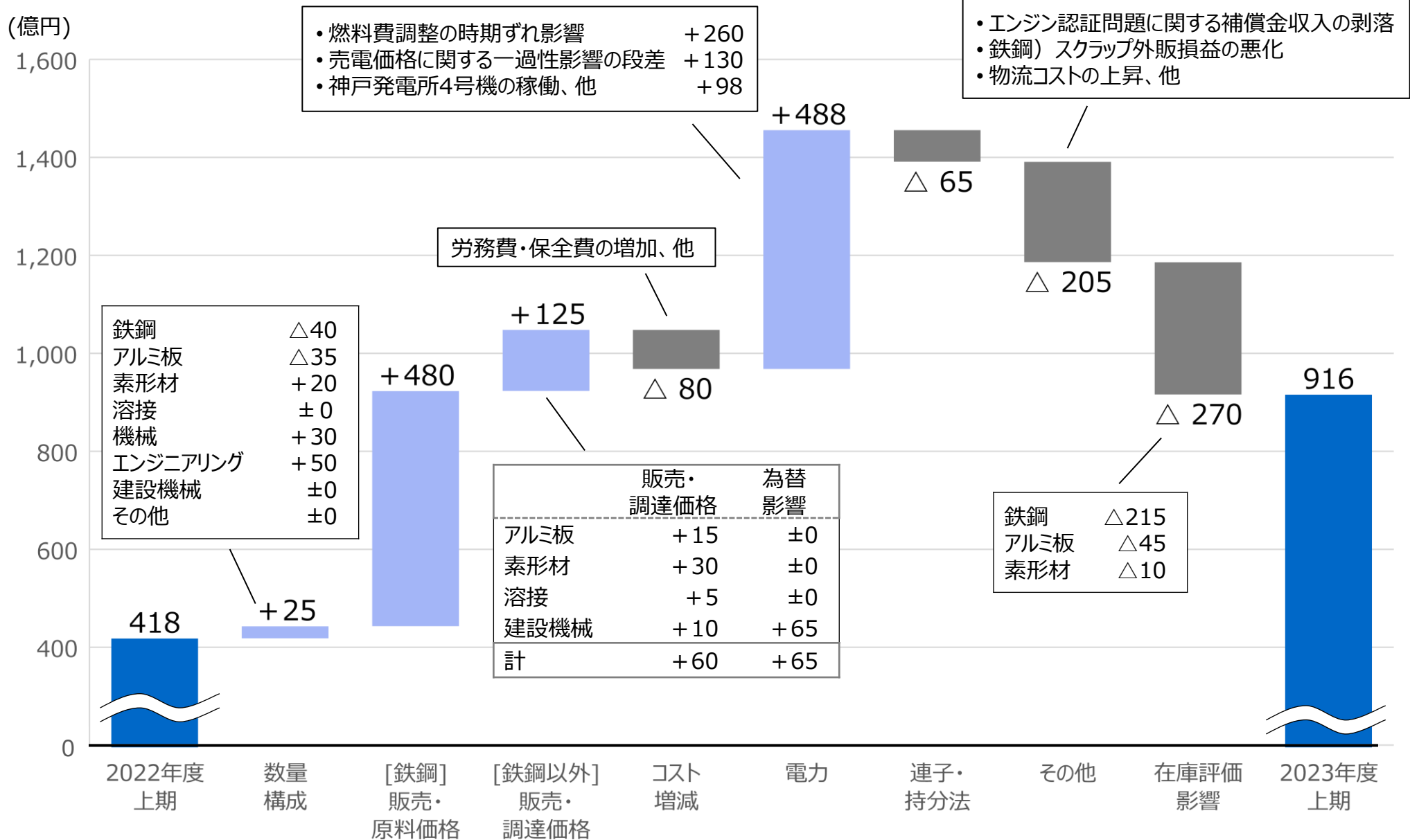
【経常損益】 916億円（前年同期比+497億円）

- 鉄鋼・アルミ板での販売数量の減少、在庫評価影響の悪化、建設機械でのエンジン認証問題に関する補償金収入の剥落があったものの、鉄鋼メタルスプレッドの大幅な改善（原料炭価格の下落と販売価格改善の進展）、機械・エンジニアリングでの売上高の増加、電力での神戸発電所4号機の稼働や燃料費調整の時期ずれ影響の改善、売電価格に関する一過性の増益影響などにより増益

（単位：億円）

	2022年度 上期 ①	2023年度 上期 ②	増減 ②-①
売上高	11,696	12,538	+841
営業損益	197	921	+723
経常損益	418	916	+497
在庫評価影響を除く	193	961	+767
特別損益	△26	※ 277	+303
親会社株主に帰属する四半期純損益	280	803	+523

※ 子会社における固定資産の譲渡益。（8月4日プレスリリース資料参照）



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【売上高】

(単位：億円)

	2022年度 上期 ①	2023年度 上期 ②	増減 ②-①
鉄鋼アルミ	5,365	5,489	+123
素形材	1,331	1,418	+87
溶接	421	464	+42
機械	※ 927	1,032	+104
エンジニアリング	611	751	+140
建設機械	1,837	1,926	+88
電力	1,475	1,727	+252
その他	※ 42	45	+3
調整額	△317	△319	△1
合計	11,696	12,538	+841

【経常損益】

(単位：億円)

	2022年度 上期 ③	2023年度 上期 ④	増減 ④-③
鉄鋼アルミ	223	207	△15
素形材	14	△0	△15
溶接	8	15	+7
機械	※ 50	103	+53
エンジニアリング	9	62	+52
建設機械	100	50	△49
電力	△13	474	+488
その他	※ 24	17	△6
調整額	1	△15	△16
合計	418	916	+497

※ (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更。
これに伴い、対比元の2022年度実績数値を再集計。

(単位：億円)

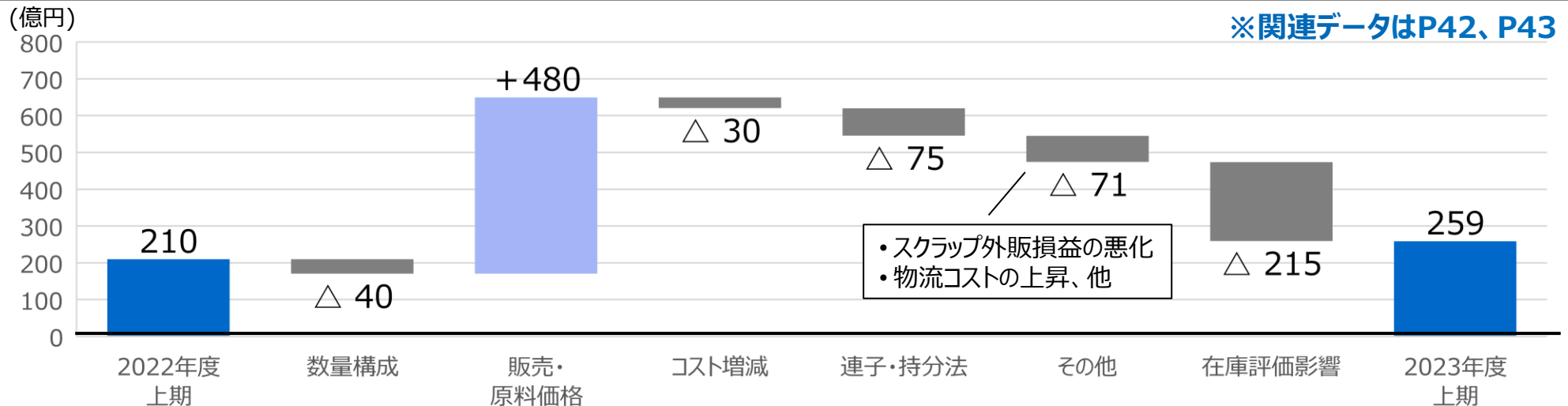
		2022年度 上期 ①	2023年度 上期 ②	増減 ②-①
鉄鋼	売上高	4,383	4,524	+140
	経常損益	210	259	+48
	在庫評価影響を除く	60	324	+263
アルミ板	売上高	981	965	△16
	経常損益	12	△51	△63
	在庫評価影響を除く	△42	△61	△18
合計	売上高	5,365	5,489	+123
	経常損益	223	207	△15
	在庫評価影響を除く	18	262	+244

【売上高】 2022年度上期：4,383億円 → 2023年度上期：4,524億円（前年同期比+140億円）

【経常損益】2022年度上期： 210億円 → 2023年度上期： 259億円（前年同期比 +48億円）

鉄
鋼

- 粗鋼生産：309万t（前年同期比△6万t）
- 販売数量：247万t（前年同期比△3万t）
 - ・自動車向けは需要回復に伴い増加の一方、自動車向け以外の需要減などにより前年同期並み
- 販売価格：140,400円/t（前年同期比+5,900円/t）
- 損益変動要因
 - ・販売数量の減少
 - ・鉄鋼メタルスプレッドの大幅な改善（原料炭価格の下落と販売価格改善の進展）
 - ・保全費などの固定費を中心としたコストの増加
 - ・米国関係会社の業績悪化
 - ・在庫評価影響の悪化



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

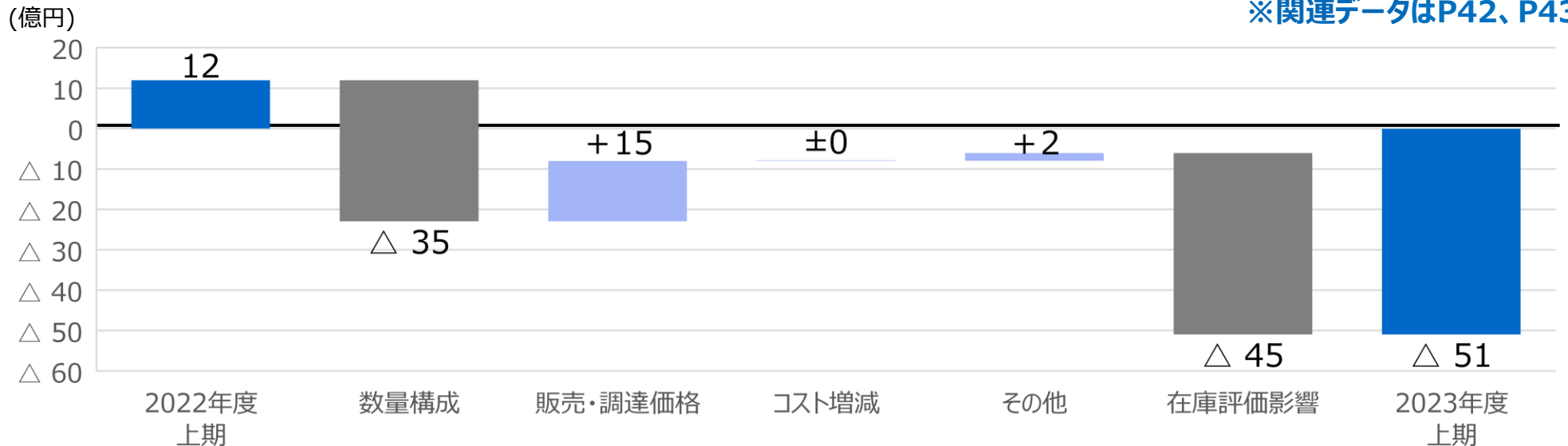
アルミ板

【売上高】 2022年度上期：981億円 → 2023年度上期：965億円（前年同期比△16億円）

【経常損益】2022年度上期：12億円 → 2023年度上期：△51億円（前年同期比△63億円）

- 販売数量：161千t（前年同期比△9千t）
 - ・飲料用缶材向け：概ね前年同期並み
 - ・自動車向け：前年同期並み
 - ・IT・半導体向け：半導体製造装置向け厚板、データセンター向けディスク材ともに、需要の調整局面を受けて大幅に減少
- 損益変動要因
 - ・販売数量の減少
 - ・調達コスト上昇分の販売価格への転嫁の進展
 - ・在庫評価益の縮小

※関連データはP42、P43



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

	2022年度 上期 ①	2023年度 上期 ②	(単位：億円) 増減 ②-①
売上高	1,331	1,418	+87
経常損益	14	△0	△15
在庫評価影響を除く	△5	△10	△5

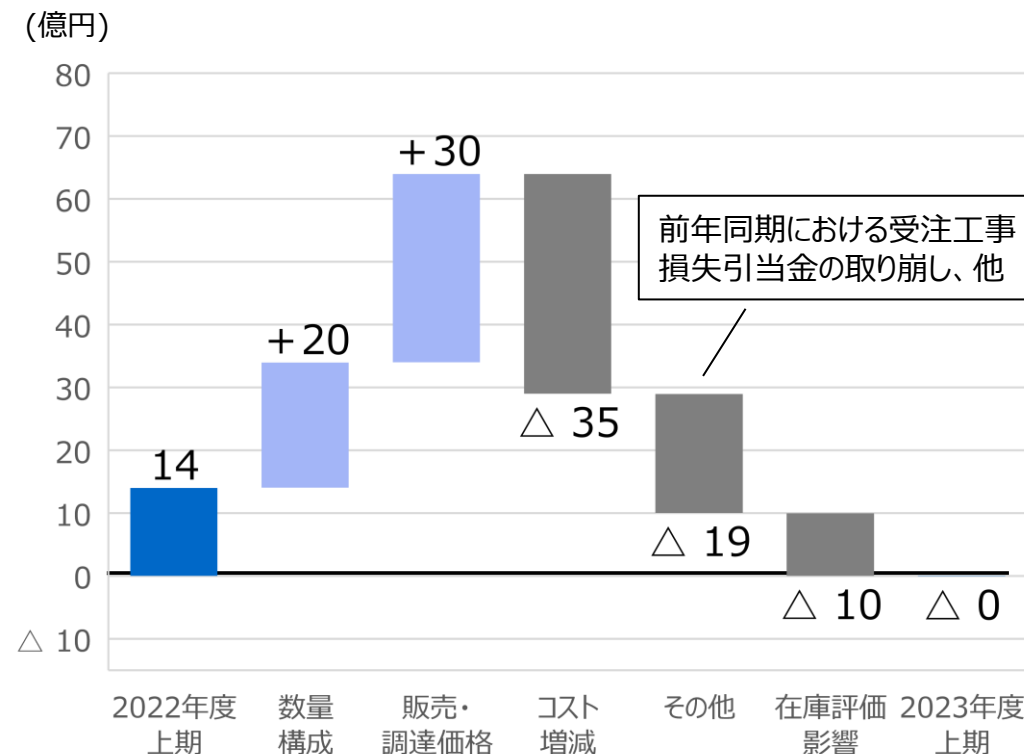
※関連データはP42、P43

■ 販売数量

- 造船向け需要の取り込みにより、鑄鍛鋼で増加
- 一般産業向け需要の回復により、チタンで増加
- 自動車向け需要の回復などにより、サスペンションで増加
- IT・半導体向け需要の減少により、銅板、アルミ鑄鍛で減少

■ 損益変動要因

- 販売数量の増加
- 調達コスト上昇分の販売価格への転嫁の進展
- 労務費などの固定費を中心としたコストの増加
- 在庫評価益の縮小



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2022年度 上期 ①	2023年度 上期 ②	増減 ②-①
売上高	421	464	+42
経常損益	8	15	+7

※関連データはP42

■ 販売数量

国内：前年同期並み

海外：東南アジアでの需要回復遅れ、および中国での日系自動車・建設機械向けの
需要減少により減少

■ 損益変動要因

- 販売数量の減少
- 調達コスト上昇分の販売価格への転嫁の進展

(単位：億円)

	2022年度 上期 ① ※	2023年度 上期 ②	増減 ②-①
売上高	927	1,032	+104
経常損益	50	103	+53
受注高	1,194	1,158	△36

	2022年度末 ①	2023年度上期末 ②	増減 ②-①
受注残高	2,147	2,262	+115

※ (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更。
これに伴い、対比元の2022年度上期実績数値を再集計。

■ 受注高

- 石油化学・エネルギー向けを中心に堅調に推移
- 樹脂機械で大型案件を受注した前年同期と比較すると減少

■ 損益変動要因

- 前年度の好調な受注に伴う売上高の増加

(単位：億円)

	2022年度 上期 ①	2023年度 上期 ②	増減 ②-①
売上高	611	751	+140
経常損益	9	62	+52
受注高	772	1,224	+451

	2022年度末 ①	2023年度上期末 ②	増減 ②-①
受注残高	3,711	4,393	+682

■ 受注高

- 還元鉄関連事業で海外大型案件を受注したことや、廃棄物処理関連事業での堅調な受注などにより増加

■ 損益変動要因

- 還元鉄関連事業を中心とした案件構成差

	2022年度 上期 ①	2023年度 上期 ②
売上高	1,837	1,926
経常損益	100	50

(単位：億円)

増減 ②-①
+88
△49

※関連データはP42

■ 販売台数

[油圧ショベル]：前年同期並み

- 中国は需要低迷により減少
- 欧州はエンジン認証問題などにより減少
- 北米などで増加

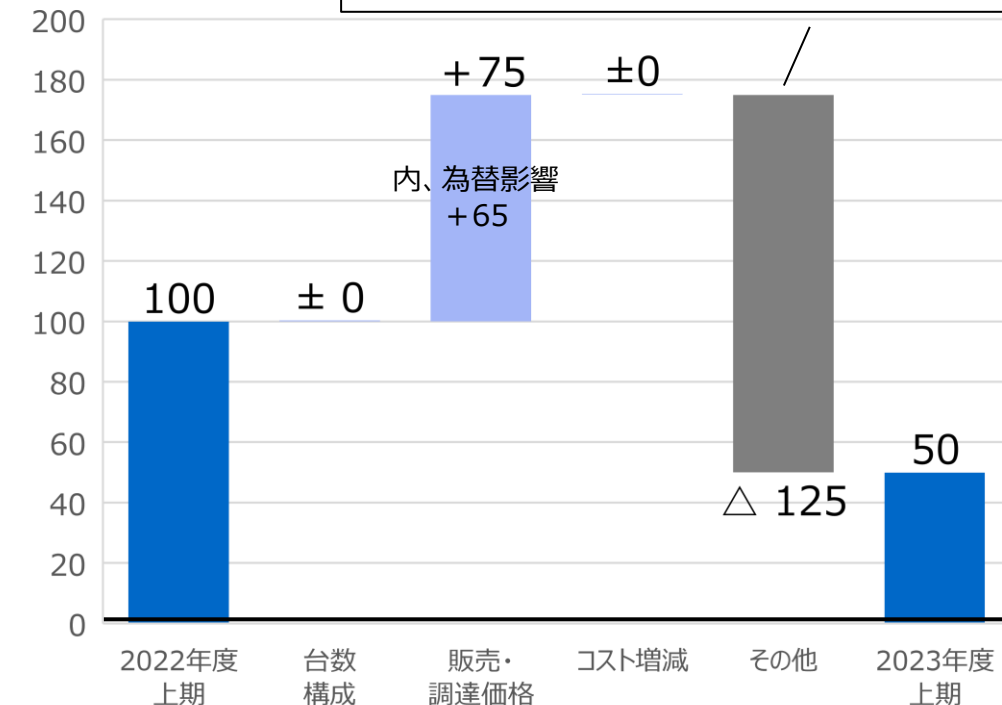
[クローラクレーン]

- 北米などで増加の一方、欧州でのエンジン認証問題などにより減少

■ 損益変動要因

- 対ドル、ユーロでの円安による輸出採算の改善
- エンジン認証問題に関する補償金収入の剥落

(億円)



	2022年度 上期 ①	2023年度 上期 ②	(単位：億円) 増減 ②-①
売上高	1,475	1,727	+252
経常損益	△13	474	+488

※関連データはP48

■ 販売電力量

- 4号機（2023年2月に営業運転開始）の稼働に伴い増加

■ 販売単価

- 発電用石炭価格は前年同期比下落したものの、燃料費調整の時期ずれ影響により前年同期並み

■ 損益変動要因

- 神戸発電所4号機の稼働
- 神戸発電所3・4号機における燃料費調整の時期ずれ影響の改善
- 神戸発電所1～4号機における売電価格に関する一過性の増益影響
 ※前年同期は損失影響が発生し、当期は増益影響が発生

3. 2023年度 業績見通し

【売上高】 前回：2兆5,900億円 → 今回：2兆5,700億円（前回比△200億円）

- 素材系事業・建設機械での販売数量の減少

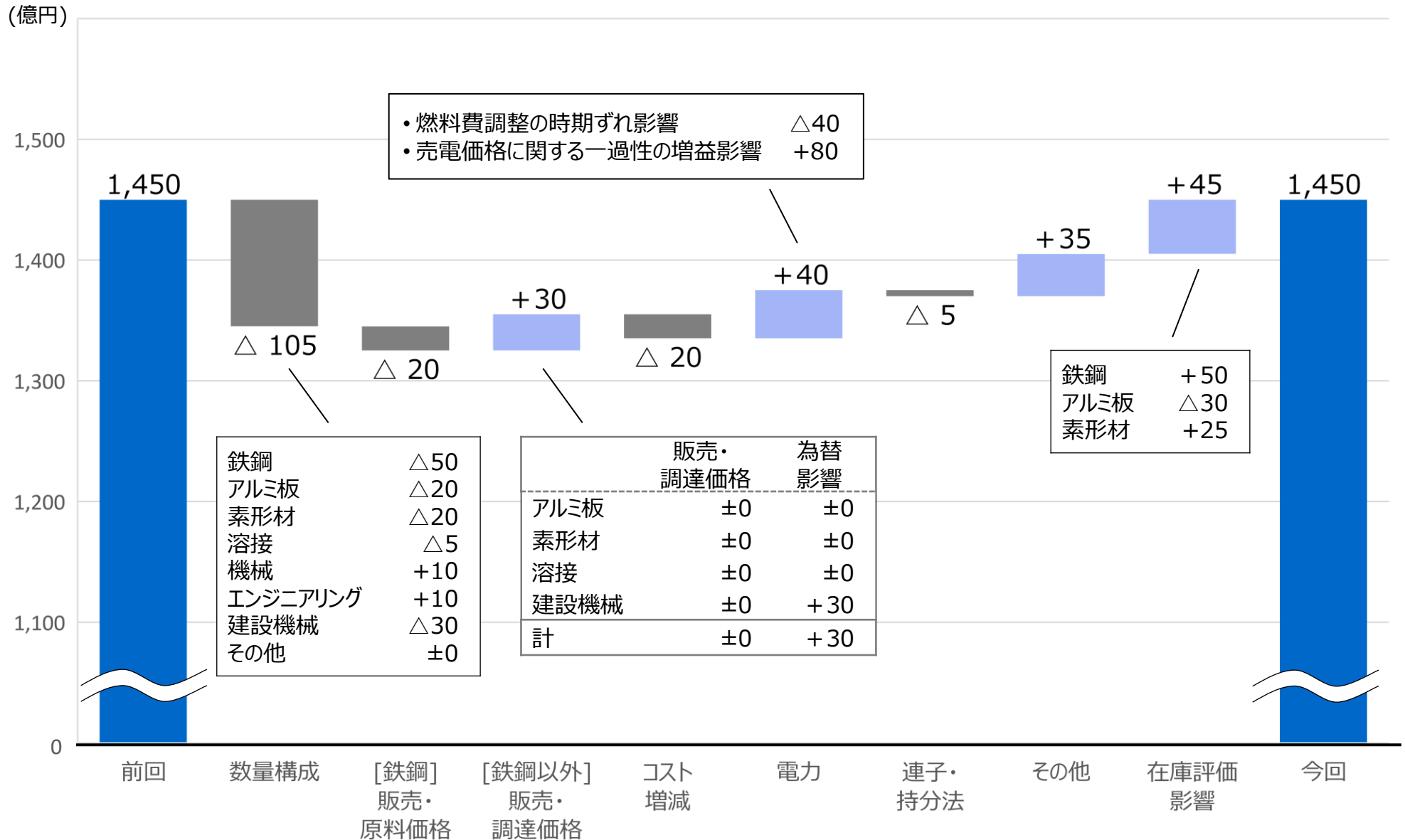
【経常損益】 前回：1,450億円 → 今回：1,450億円（前回比±0億円）

- 素材系事業・建設機械での販売数量の減少
- 機械でのサービス案件の増加や受注採算の改善
- 建設機械での円安による輸出採算の改善
- 電力での売電価格に関する一過性の増益影響
- 在庫評価影響の改善

（単位：億円）

	2022年度実績			2023年度見通し（前回）			2023年度見通し（今回）			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
売上高	11,696	13,028	24,725	12,700	13,200	25,900	12,538	13,161	25,700	△200
営業損益	197	665	863	800	850	1,650	921	728	1,650	-
経常損益	418	650	1,068	700	750	1,450	916	533	1,450	-
在庫評価影響を除く	193	635	828	710	750	1,460	961	453	1,415	△45
特別損益	△26	△61	△87	270	-	270	※ 277	-	277	+7
親会社株主に帰属する 当期純損益	280	445	725	650	550	1,200	803	396	1,200	-

※ 子会社における固定資産の譲渡益。（8月4日プレスリリース資料参照）



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【売上高】

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
鉄鋼アルミ	5,365	5,686	11,051	5,450	5,450	10,900	5,489	5,190	10,680	△220
素形材	1,331	1,446	2,777	1,490	1,700	3,190	1,418	1,701	3,120	△70
溶接	421	462	884	450	480	930	464	475	940	+10
機械 ※	927	1,106	2,034	1,070	1,350	2,420	1,032	1,397	2,430	+10
エンジニアリング	611	840	1,452	780	920	1,700	751	968	1,720	+20
建設機械	1,837	1,979	3,817	2,050	2,300	4,350	1,926	2,273	4,200	△150
電力	1,475	1,768	3,243	1,610	1,240	2,850	1,727	1,332	3,060	+210
その他 ※	42	66	109	50	70	120	45	54	100	△20
調整額	△317	△328	△646	△250	△310	△560	△319	△230	△550	+10
合計	11,696	13,028	24,725	12,700	13,200	25,900	12,538	13,161	25,700	△200

※ (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更。
これに伴い、対比元の2022年度実績数値を再集計。

【経常損益】

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
鉄鋼アルミ	223	196	419	110	220	330	207	47	255	△75
素形材	14	△5	9	△5	40	35	△0	20	20	△15
溶接	8	19	28	15	25	40	15	24	40	-
機械 ※	50	107	157	80	140	220	103	156	260	+40
エンジニアリング	9	32	41	50	30	80	62	17	80	-
建設機械	100	23	123	30	100	130	50	59	110	△20
電力	△13	259	245	410	250	660	474	225	700	+40
その他 ※	24	24	48	20	25	45	17	17	35	△10
調整額	1	△8	△7	△10	△80	△90	△15	△34	△50	+40
合計	418	650	1,068	700	750	1,450	916	533	1,450	-

※ (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更。
これに伴い、対比元の2022年度実績数値を再集計。

(単位：億円)

		2022年度実績			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減
		上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
鉄鋼	売上高	4,383	4,713	9,097	4,550	4,450	9,000	4,524	4,345	8,870	△130
	経常損益	210	279	490	160	200	360	259	85	345	△15
	在庫評価影響を除く	60	274	335	185	205	390	324	0	325	△65
アルミ板	売上高	981	972	1,954	900	1,000	1,900	965	844	1,810	△90
	経常損益	12	△83	△70	△50	20	△30	△51	△38	△90	△60
	在庫評価影響を除く	△42	△83	△125	△60	5	△55	△61	△23	△85	△30
合計	売上高	5,365	5,686	11,051	5,450	5,450	10,900	5,489	5,190	10,680	△220
	経常損益	223	196	419	110	220	330	207	47	255	△75
	在庫評価影響を除く	18	191	210	125	210	335	262	△22	240	△95

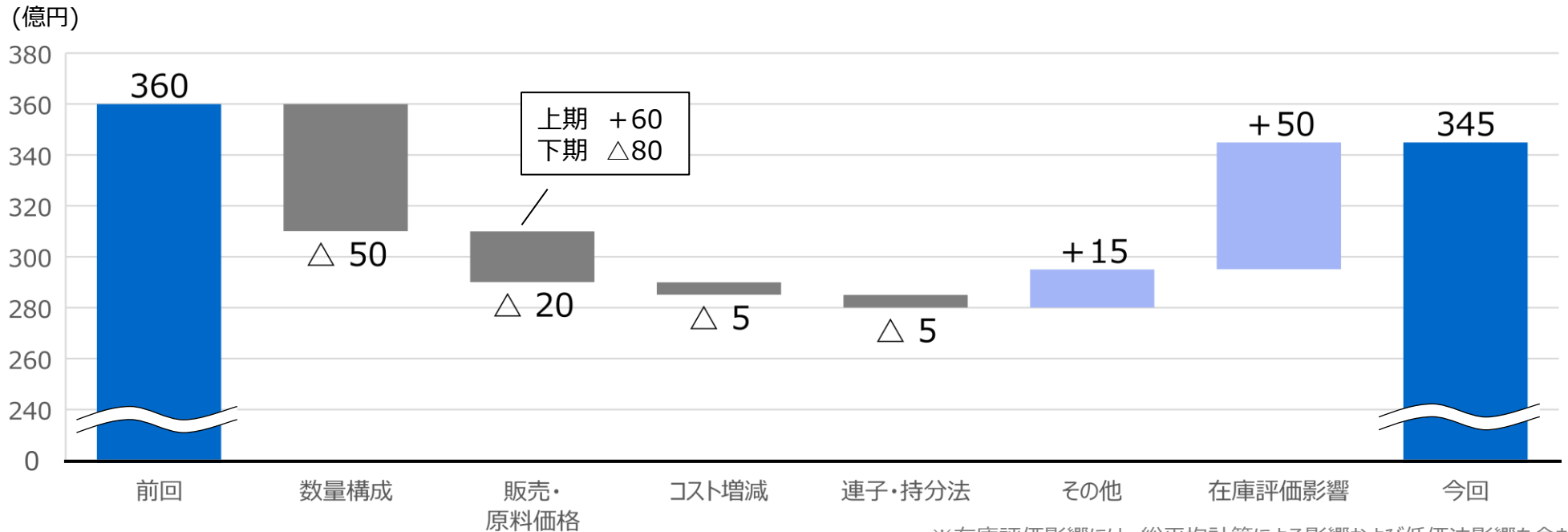
鉄
鋼

【売上高】 前回：9,000億円 → 今回：8,870億円（前回比△130億円）

【経常損益】 前回：360億円 → 今回：345億円（前回比△15億円）

- 粗鋼生産：595万t程度（前回比△15万t）
- 販売数量：475万t程度（前回比△15万t）
 - ・自動車向けは堅調に推移する一方、自動車向け以外の需要減により減少
- 損益変動要因
 - ・販売数量の減少
 - ・在庫評価影響の改善

※関連データはP42、P43

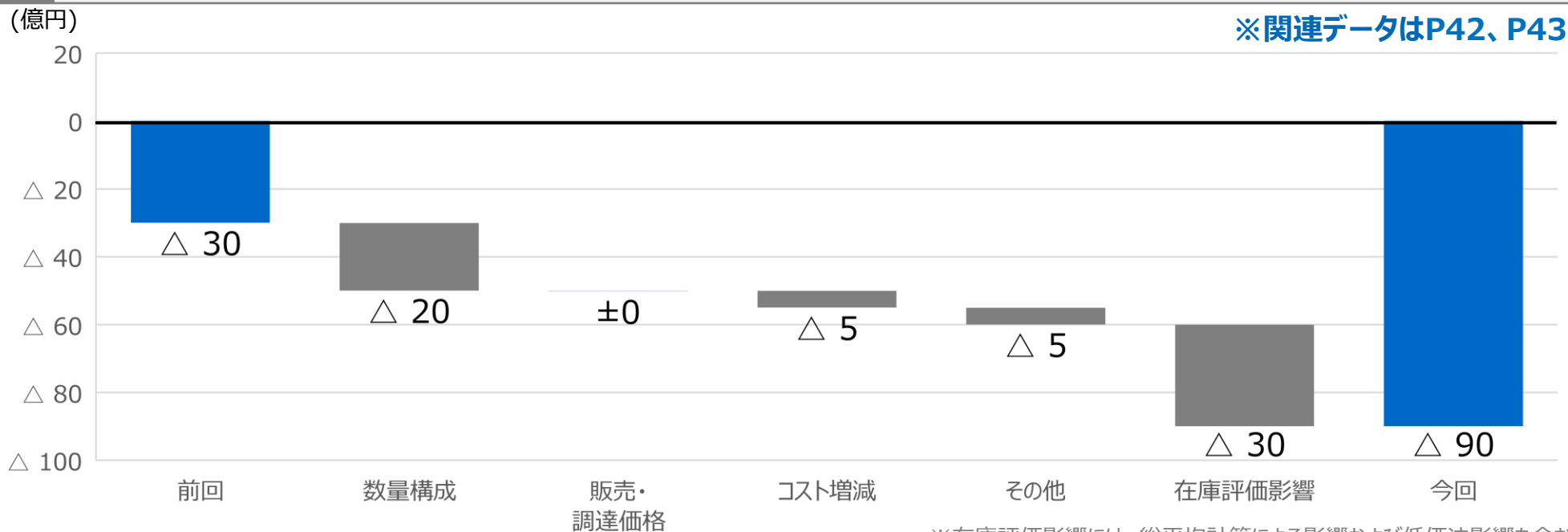


アルミ板

【売上高】 前回：1,900億円 → 今回：1,810億円（前回比△ 90億円）

【経常損益】 前回：△30億円 → 今回：△90億円（前回比△ 60億円）

- 販売数量：340千t程度（前回比△10千t程度）
 - 飲料用缶材向け：当社受注製品の需要減などにより減少
 - 自動車向け：前回並み
 - IT・半導体向け：ディスク材は前回並みの一方、厚板は需要調整局面が継続し、減少
- 損益変動要因
 - 販売数量の減少
 - アルミ地金市況の下落などに伴う在庫評価影響の悪化



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減 ②-①
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
売上高	1,331	1,446	2,777	1,490	1,700	3,190	1,418	1,701	3,120	△70
経常損益	14	△5	9	△5	40	35	△0	20	20	△15
在庫評価影響を除く	△5	△15	△21	△10	50	40	△10	10	0	△40

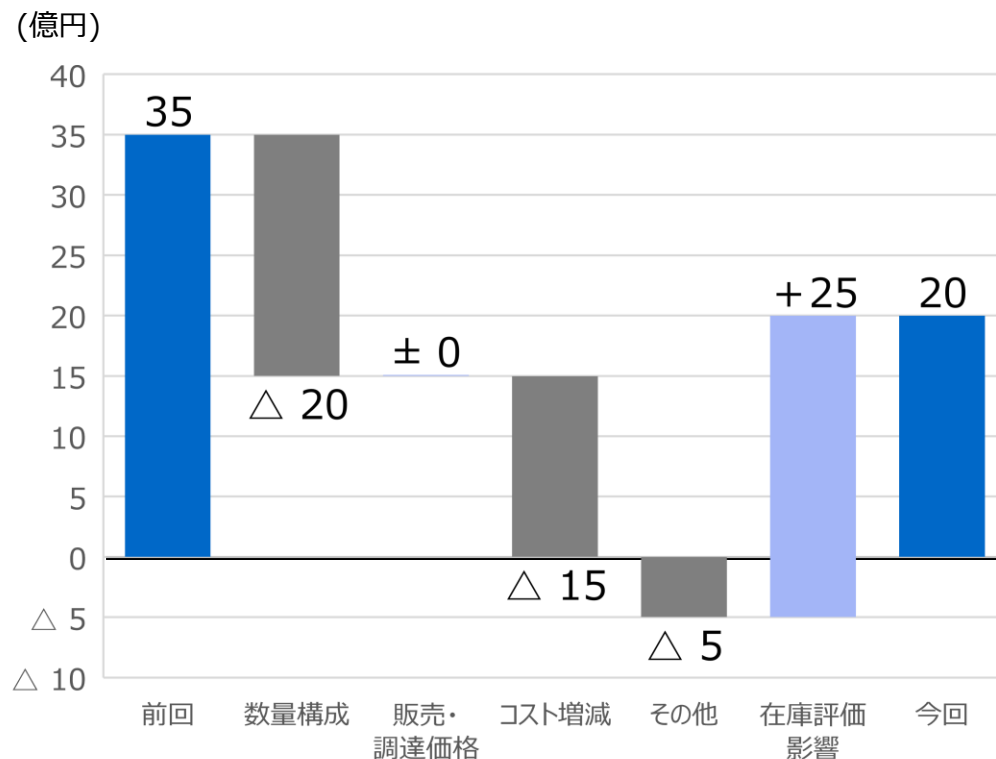
※関連データはP42、P43

■ 販売数量

- IT・半導体向け需要の回復遅れにより、銅板、アルミ鋳鍛で減少
- 自動車向け当社受注製品の需要減少などにより、アルミ押出で減少
- 鋳鍛鋼、チタンは堅調に推移

■ 損益変動要因

- 販売数量の減少
- 生産トラブルなどに伴う一過性のコストアップ
- 銅地金市況の上昇などに伴う在庫評価影響の改善



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
売上高	421	462	884	450	480	930	464	475	940	+10
経常損益	8	19	28	15	25	40	15	24	40	-

※関連データはP42

■ 販売数量

- 国内・海外：前回並み

■ 損益変動要因

- 前回並み

(単位：億円)

	2022年度実績 ※			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減 ②-①
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
売上高	927	1,106	2,034	1,070	1,350	2,420	1,032	1,397	2,430	+10
経常損益	50	107	157	80	140	220	103	156	260	+40
受注高	1,194	1,464	2,659	1,300 程度	1,250 程度	2,550 程度	1,158	1,500 程度	2,650 程度	+100 程度

※ (株)コベルコ科研について、2023年度より「その他セグメント」から「機械セグメント」に変更。
これに伴い、対比元の2022年度実績数値を再集計。

■ 受注高

- 石油化学・エネルギー向けを中心とした堅調な受注により、過去最高を記録した前期並みを見込む

■ 損益変動要因

- サービス案件の増加
- 堅調な需要を受けた受注採算の改善

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減 ②-①
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
売上高	611	840	1,452	780	920	1,700	751	968	1,720	+20
経常損益	9	32	41	50	30	80	62	17	80	-
受注高	772	802	1,575	1,100 程度	800 程度	1,900 程度	1,224	850 程度	2,050 程度	+150 程度

■ 受注高

- 水処理事業、廃棄物処理関連事業での堅調な受注などにより前回比で増加

■ 損益変動要因

- 前回並み

(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し (前回)			2023年度見通し (今回)			増減 ②-①
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
売上高	1,837	1,979	3,817	2,050	2,300	4,350	1,926	2,273	4,200	△150
経常損益	100	23	123	30	100	130	50	59	110	△20

※関連データはP42

■販売台数

[油圧ショベル]

- ・国内は前回並み
- ・中国・東南アジアは需要低迷により、前回比で減少
- ・欧州はインフレおよび金融引き締めによる需要減少に加え、エンジン認証問題に伴う英国向けの販売再開の遅れもあり、前回比で減少

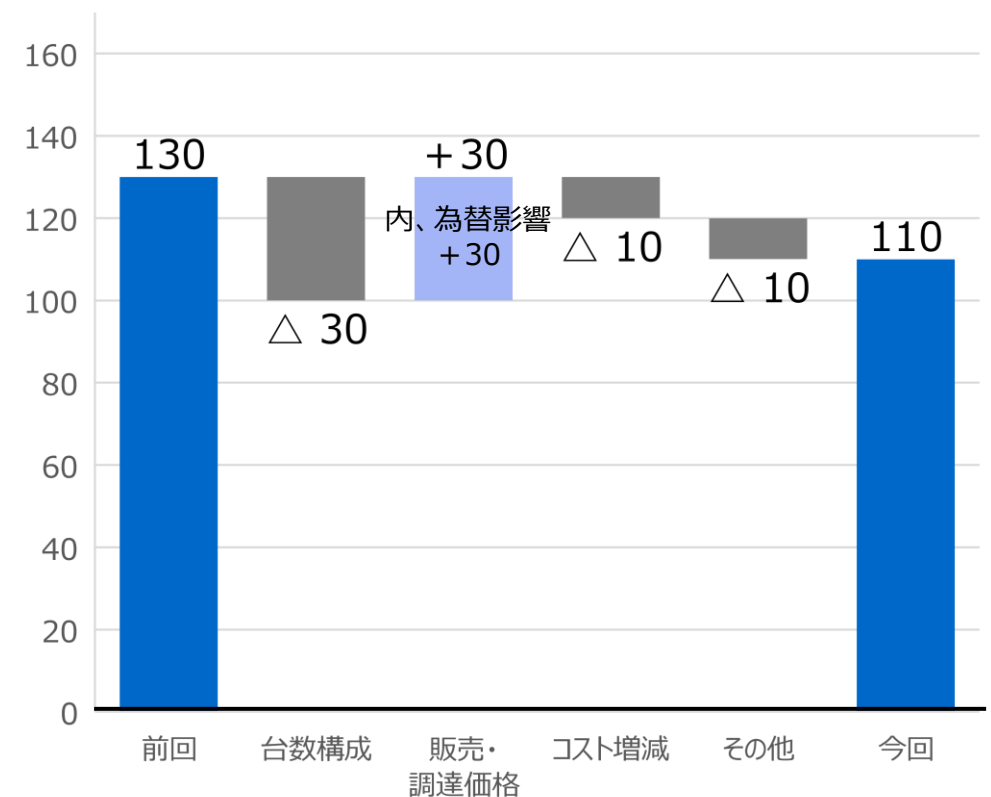
[クローラクレーン]

- ・前回比で減少

■損益変動要因

- ・販売台数の減少
- ・円安による輸出採算の改善

(億円)



(単位：億円)

	2022年度実績			2023年度見通し（前回）			2023年度見通し（今回）			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
売上高	1,475	1,768	3,243	1,610	1,240	2,850	1,727	1,332	3,060	+210
経常損益	△13	259	245	410	250	660	474	225	700	+40

※関連データはP48

■ 販売電力量

- ・ 前回並み

■ 販売単価

- ・ 一般炭価格の変動に伴い前回比で上昇

■ 損益変動要因

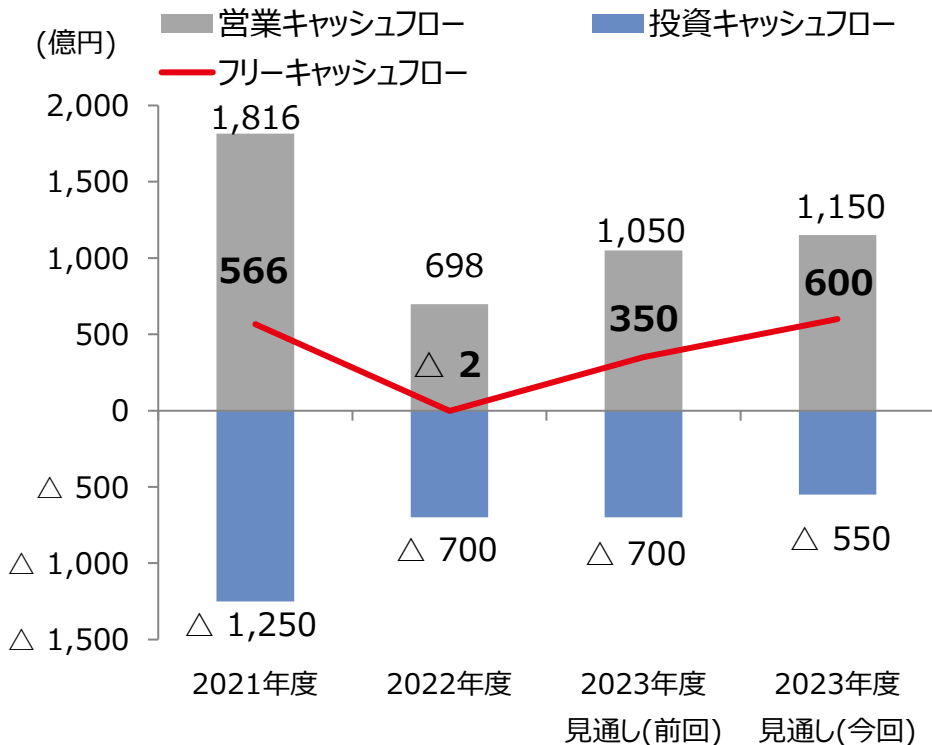
- ・ 神戸発電所3・4号機における燃料費調整の時期ずれに伴う増益影響の縮小
- ・ 神戸発電所1～4号機における売電価格に関する一過性の増益影響

- 配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要などを総合的に考慮して決定することとしております。
- 配当性向の目安につきましては、8月8日に公表の通り、当期より「親会社株主に帰属する当期純利益（連結）の30%」に変更をしております。
- この方針の下、当期の中間配当につきましては、8月8日に公表の方針の通り、1株につき45円とすることを本日の取締役会で決議いたしました。なお、期末配当の方針につきましては、8月8日公表からの変更はございません。

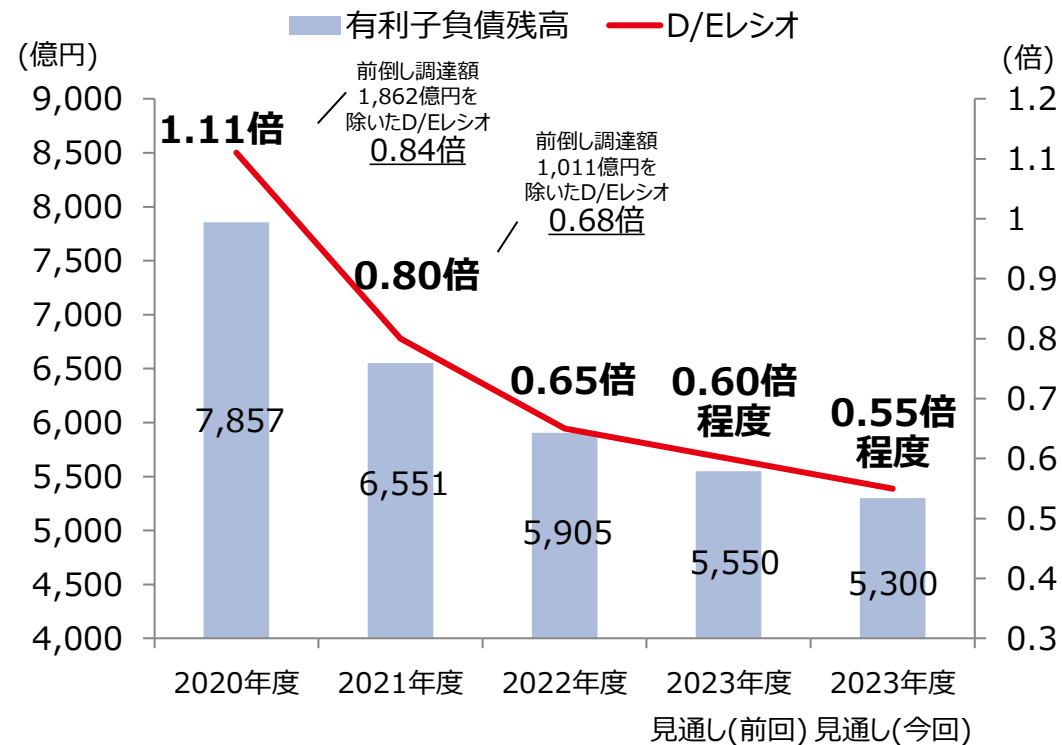
	2022年度			2023年度		
	中間	期末		中間	期末	
配当金額（円/株）	15	25	40	45	45	90
配当性向			21.8%			29.6%

- 2023年度のフリーキャッシュフローは、ROIC管理における重要KPIの設定を通じた**投下資本の管理強化**による運転資本の改善や、設備投資の厳選などにより、前回見通し比250億円増加の**600億円**程度の見通し。
- D/Eレシオは、**0.55倍**程度と中期経営計画にて目標とした0.7倍以下を堅持する見通し。

《フリーキャッシュフロー》



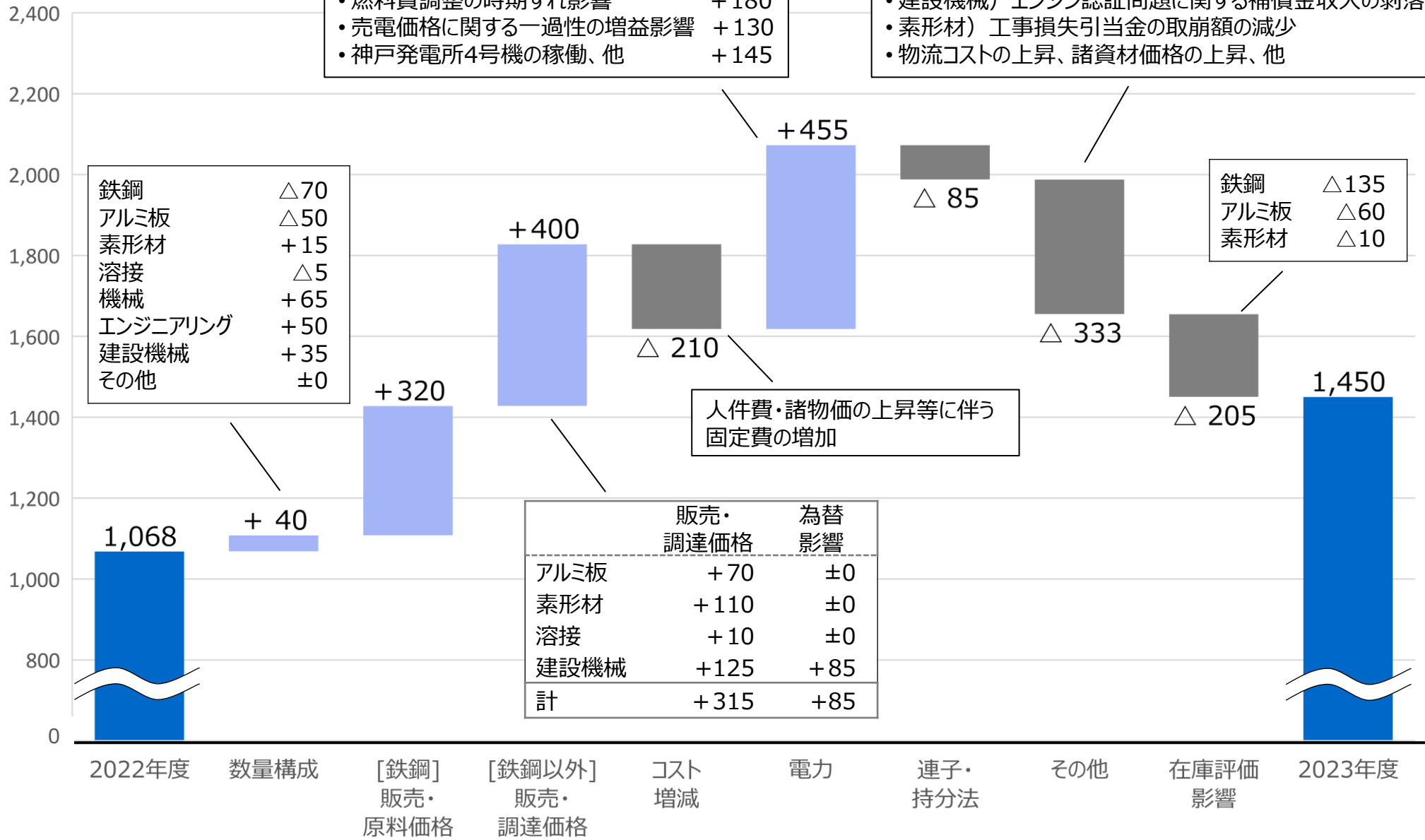
《有利子負債残高・D/Eレシオ》



※フリーキャッシュフローおよびD/Eレシオに、プロジェクトファイナンスは含まない

4. 参考情報

(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

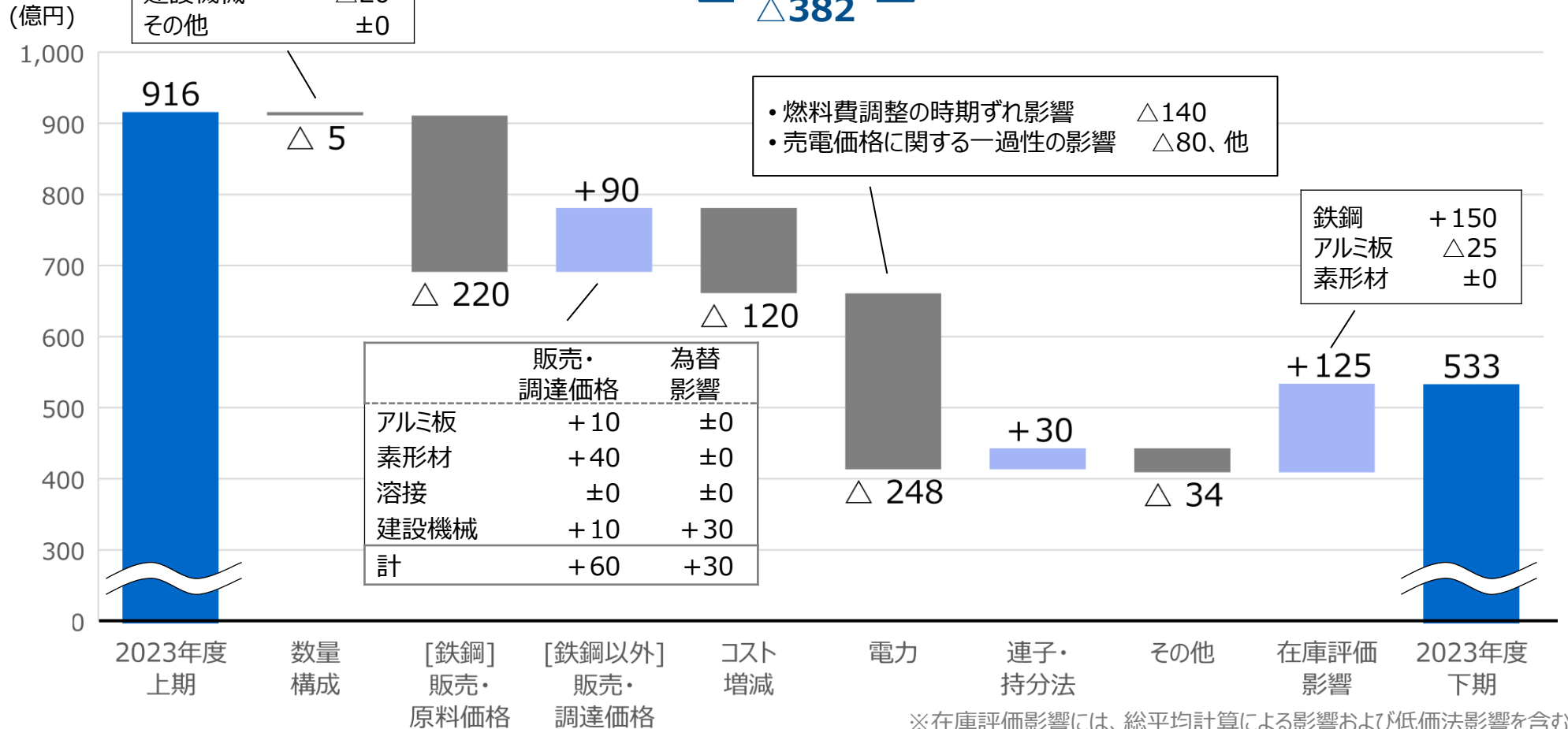
【全社 経常損益】

(単位：億円)

鉄鋼	△60
アルミ板	+30
素形材	+15
溶接	±0
機械	+25
エンジニアリング	+5
建設機械	△20
その他	±0

	2023年度見通し		
	上期	下期	通期
全社	916	533	1,450

△382



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【鉄鋼 経常損益】

(単位：億円)

	2023年度見通し		
	上期	下期	通期
鉄鋼	259	85	345

△174

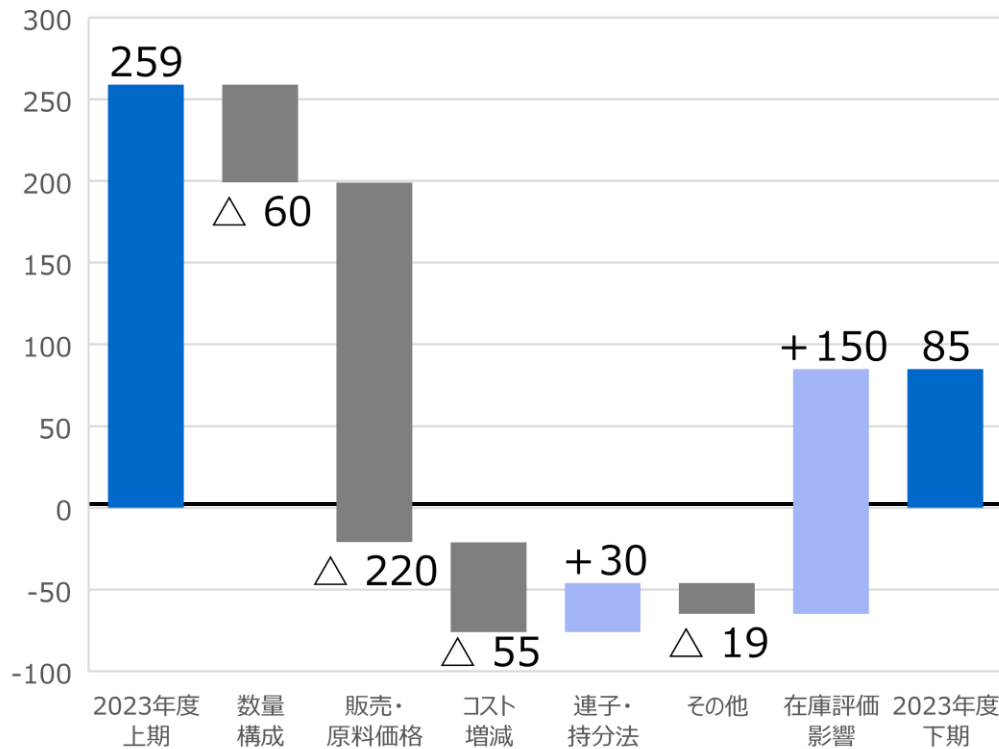
【アルミ板 経常損益】

(単位：億円)

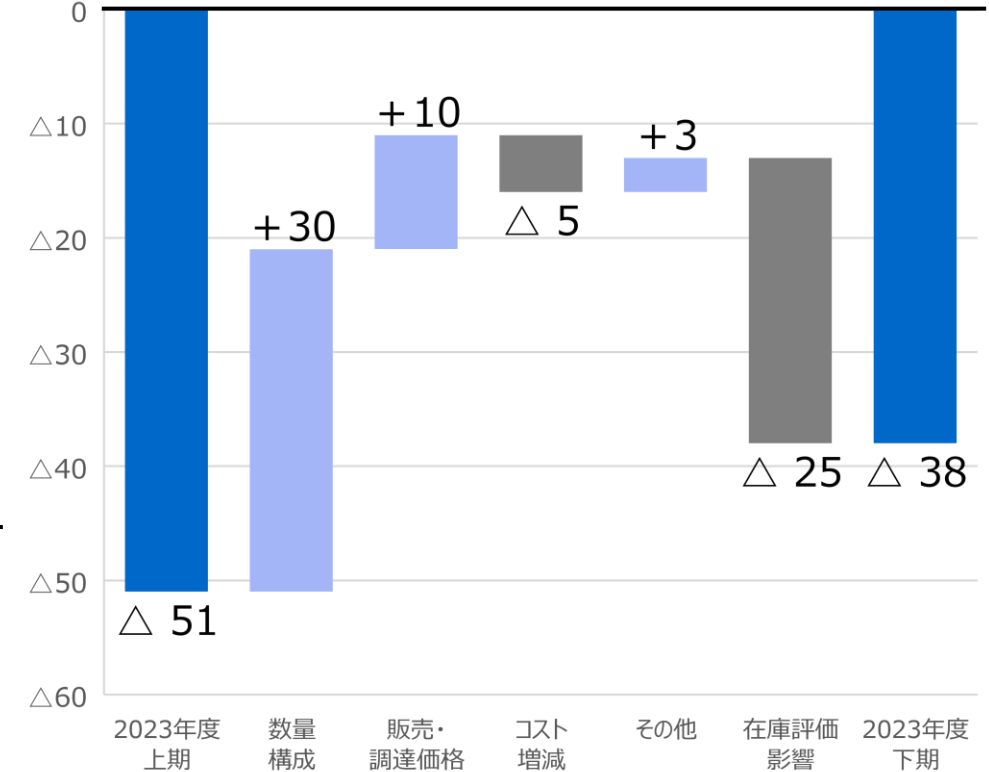
	2023年度見通し		
	上期	下期	通期
アルミ板	△51	△38	△90

+13

(億円)



(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【素形材 経常損益】

(単位：億円)

	2023年度見通し		
	上期	下期	通期
素形材	△ 0	20	20

+20

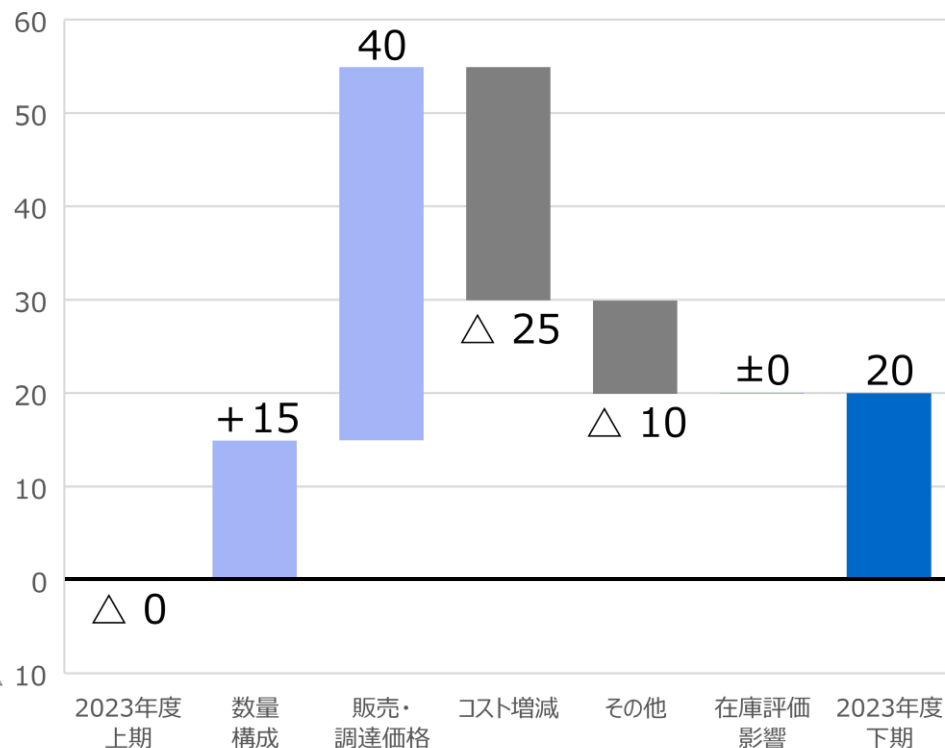
【建設機械 経常損益】

(単位：億円)

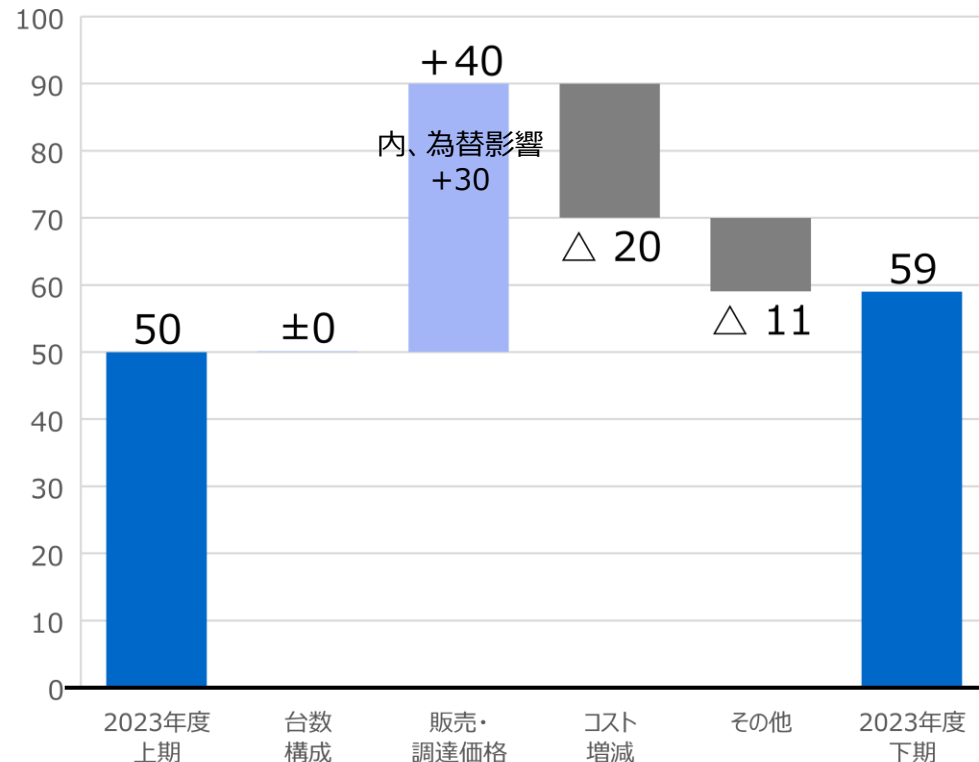
	2023年度見通し		
	上期	下期	通期
建設機械	50	59	110

+9

(億円)



(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

	2022年度実績			2023年度見通し(前回)		2023年度見通し(今回)		
	上期	下期	通期	上期	通期	上期	下期	通期
粗鋼生産量 ※1 [万t]	315	304	619	310程度	610程度	309	285程度	595程度
鋼材 販売数量 ※2 [万t]	250	248	498	240程度	490程度	247	230程度	475程度
(国内)	(192)	(193)	(385)	(185程度)	(370程度)	(192)	(180程度)	(370程度)
(輸出)	(58)	(55)	(113)	(55程度)	(120程度)	(54)	(50程度)	(105程度)
鋼材 販売単価 [千円/t]	134.5	145.7	140.1			140.4		
鋼材 輸出比率	23.4%	21.8%	22.6%			20.9%		
アルミ板 販売数量 ※3 [千t]	170	167	337	170程度	350程度	161	180程度	340程度
(国内)	(119)	(113)	(232)	(125程度)	(255程度)	(116)	(130程度)	(245程度)
(海外)	(51)	(55)	(105)	(45程度)	(95程度)	(45)	(50程度)	(95程度)
アルミ押出 販売数量 ※3 [千t]	17	17	34	18程度	41程度	18	22程度	39程度
(国内)	(14)	(13)	(27)	(14程度)	(31程度)	(13)	(17程度)	(30程度)
(海外)	(4)	(4)	(8)	(4程度)	(10程度)	(4)	(5程度)	(9程度)
銅板 販売数量 ※2 [千t]	27	27	54	26程度	58程度	24	32程度	56程度
溶接材料 販売数量 ※3 [千t]	125	123	248	120程度	245程度	122	125程度	245程度
(国内)	(52)	(54)	(105)	(50程度)	(105程度)	(53)	(55程度)	(105程度)
(海外)	(74)	(69)	(143)	(70程度)	(140程度)	(69)	(70程度)	(140程度)
油圧ショベル 販売台数 ※4 [千台]	11.9	12.7	24.6	12.5程度	27.0程度	11.7	14.0程度	25.5程度
(国内)	(3.4)	(4.2)	(7.6)	(3.8程度)	(8.5程度)	(3.4)	(5.0程度)	(8.5程度)
(海外)	(8.5)	(8.5)	(17.0)	(8.7程度)	(18.5程度)	(8.3)	(9.0程度)	(17.0程度)
クローラークレーン 販売台数 ※3 [台]	145	144	289	150程度	340程度	132	200程度	330程度

※1：単体ベース、高砂製作所の電炉の生産数量を含む

※2：単体ベース

※3：連結ベース

※4：連結ベース、ミニショベルを含む

(単位：億円)

鉄鋼	2022年度実績				2023年度見通し				
	1Q	2Q	上期	通期	1Q実績	2Q実績	上期	下期	通期
鉄鉱石	30	20	50	△20	35	△10	25	5	30
石炭	35	△65	△30	△25	△10	△10	△20	15	△5
キャリーオーバー	65	△45	20	△45	25	△20	5	20	25
総平均	180	△15	165	180	△40	△30	△70	75	5
低価格	△20	5	△15	△25	5	0	5	10	15
在庫評価影響	160	△10	150	155	△35	△30	△65	85	20

アルミ板	2022年度実績				2023年度見通し				
	1Q	2Q	上期	通期	1Q実績	2Q実績	上期	下期	通期
総平均	40	15	55	65	15	△10	5	△15	△10
低価格	0	0	0	△10	0	5	5	0	5
在庫評価影響	40	15	55	55	15	△5	10	△15	△5

素形材	2022年度実績				2023年度見通し				
	1Q	2Q	上期	通期	1Q実績	2Q実績	上期	下期	通期
総平均	25	0	25	30	10	0	10	5	15
低価格	△5	0	△5	0	0	0	0	5	5
在庫評価影響	20	0	20	30	10	0	10	10	20

(単位：億円)

	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 見通し (前回)	2023年度 見通し (今回)
営業キャッシュフロー	214	2,100	1,816	698	1,050	1,150
投資キャッシュフロー	△1,334	△819	△1,250	△700	△700	△550
プロジェクトファイナンスを除く フリーキャッシュフロー	△1,120	1,281	566	△2	350	600
プロジェクトファイナンスを含む フリーキャッシュフロー	△1,919	529	72	224	850	1,100
プロジェクトファイナンスを除く 現預金残高	1,349	3,018	2,432	1,454	1,100	1,100

	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 見通し (前回)	2023年度 見通し (今回)
設備投資：計上額	2,398	1,850	1,081	973	1,350	1,200
設備投資：支払額	2,453	1,732	1,564	989	1,100	1,000
減価償却費	1,053	1,008	1,051	1,125	1,200	1,200

	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 見通し（前回）	2023年度 見通し（今回）
1株当たり当期純損益	△187.55円	64.05円	160.23円	183.80円	303.86円	303.83円
有利子負債	9,066億円	9,878億円	9,084億円	8,618億円	8,000億円	7,750億円
プロジェクトファイナンスを除く 有利子負債	7,844億円	7,857億円	6,551億円	5,905億円	5,550億円	5,300億円
D/Eレシオ ※1	※2 1.19倍	※3 1.11倍	※4 0.80倍	0.65倍	0.60倍程度	0.55倍程度
ROS ※5	△ 0.4%	0.9%	4.5%	4.3%	5.6%	5.6%
ROA ※6	△ 0.3%	0.6%	3.5%	3.8%	5.0%	5.0%
ROE ※7	△ 9.7%	3.4%	7.9%	8.4%	12.5%	12.3%
ROIC ※8	0.9%	1.1%	4.7%	4.9%	6.7%	6.9%

※1：D/Eレシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本

※2：前倒し調達（621億円）含む。前倒し調達除く2019年度D/Eレシオ：1.10倍

※3：前倒し調達（1,862億円）含む。前倒し調達除く2020年度D/Eレシオ：0.84倍

※4：前倒し調達（1,011億円）含む。前倒し調達除く2021年度D/Eレシオ：0.68倍

※5：売上高経常利益率

※6：経常損益/総資産

※7：親会社株主に帰属する当期純損益/自己資本

※8：税引後事業利益/投下資本

	2022年度実績			2023年度（前回）			2023年度（今回）		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
USドル（円/\$）	135.3	136.7	136.0	135.8	135.0	135.4	142.6	145.0	143.8
中国元（円/元）	19.9	19.5	19.7	19.8	20.0	19.9	19.9	20.0	19.9
ユーロ（円/€）	139.1	144.1	141.6	148.0	148.0	148.0	154.8	155.0	154.9

【為替の感応度分析】

USドル1円 円安に伴う今後の業績影響

 鉄鋼 : Δ 1億円程度（ドルバランスの影響 Δ 6億円、在庫評価影響・販売価格への転嫁等 + a億円）

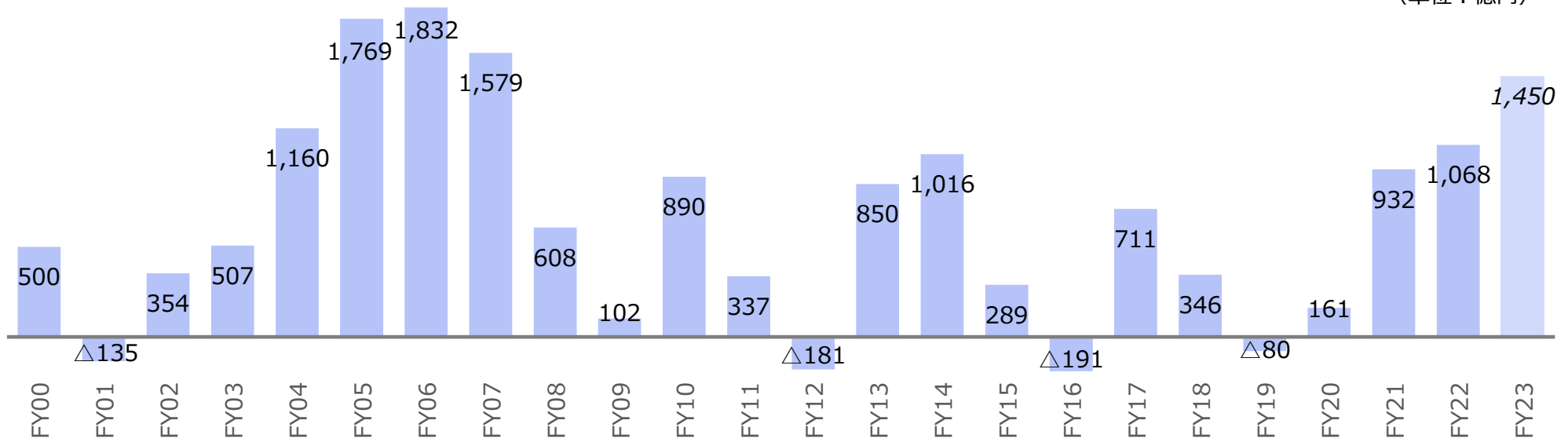
建設機械 : + 2億円程度

ユーロ1円 円安に伴う今後の業績影響

建設機械 : + 2億円程度

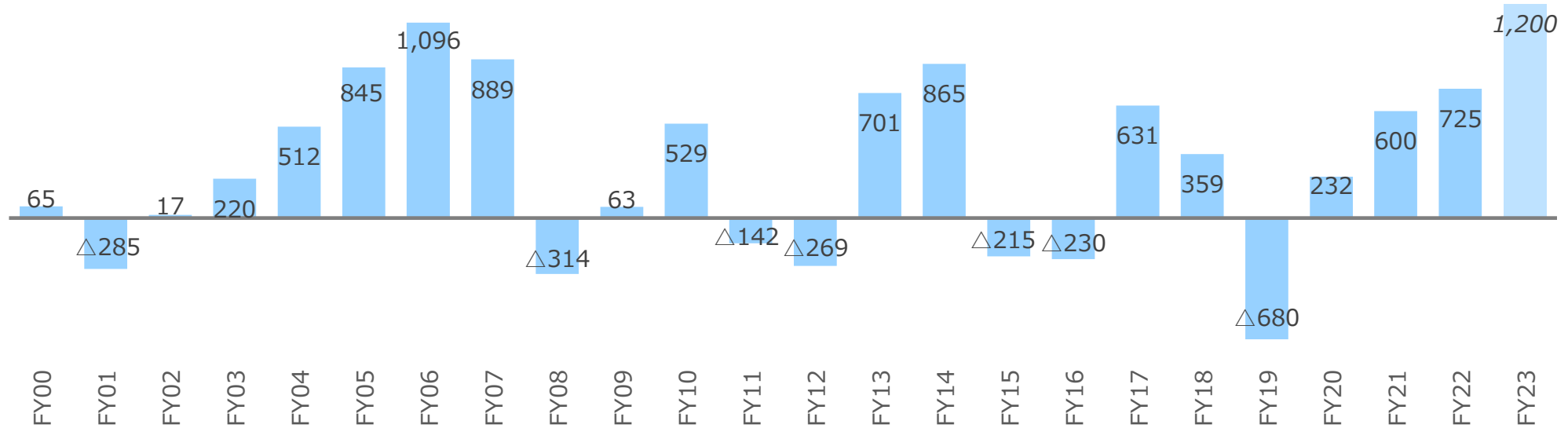
【経常損益】

(単位：億円)



【親会社株主に帰属する当期純損益】

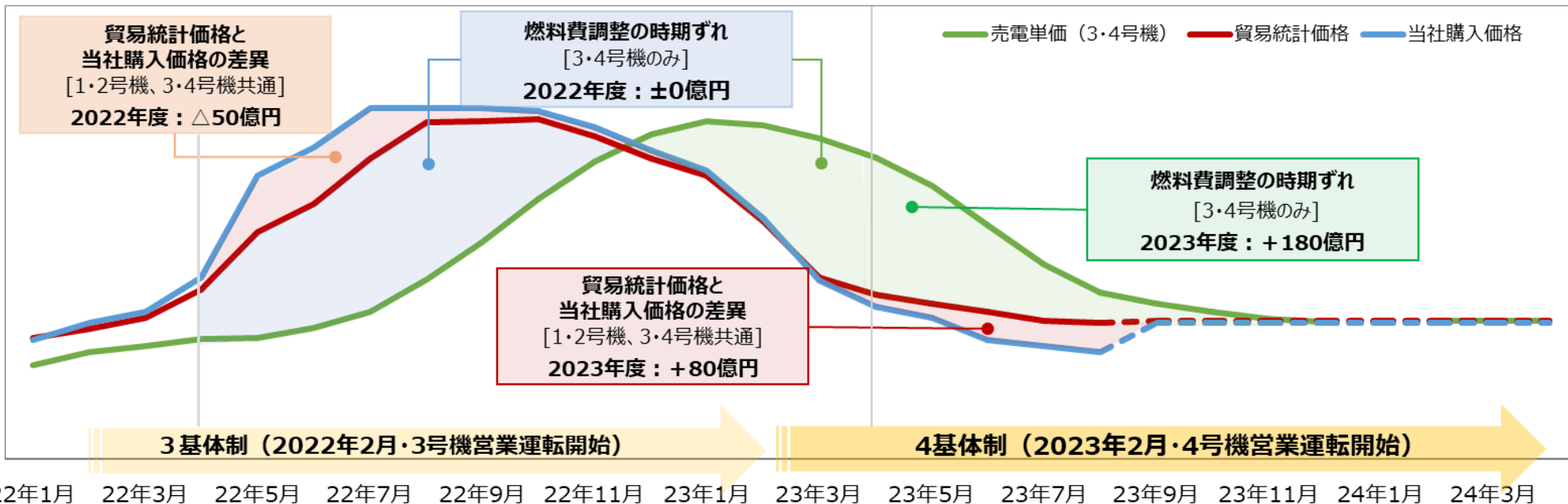
(単位：億円)



- 当社の石炭火力発電会社が受領する燃料費相当の電力量料金は、契約時の設定燃料費に、石炭の輸入貿易統計価格（全国平均値）の契約時からの変動代を調整して計算される。

期間損益の主な変動要素	2022年度	2023年度		対前期	対前回
	実績①	前回②	今回③	③-①	③-②
燃料費調整の時期ずれ [3・4号機のみ] ・石炭価格の上下に伴い必ず生じる。 （3～5ヶ月前の貿易統計値を参照） ・長期で見れば増益・減益が相殺される。	±0億円 上期△100億円 下期+100億円	+220億円 上期+190億円 下期+30億円	+180億円 上期+160億円 下期+20億円	+180億円 上期+260億円 下期△80億円	△40億円 上期△30億円 下期△10億円
売電価格に関する一過性の損益影響 [1・2号機、3・4号機共通] （貿易統計価格と当社購入価格の差異） ・基本的には乖離が生じない仕組みでの購入を方針とするものの、外部要因にてイレギュラー的に発生する可能性あり。	△50億円 上期△50億円 下期-1億円	-1億円 上期-1億円 下期-1億円	+80億円 上期+80億円 下期-1億円	+130億円 上期+130億円 下期-1億円	+80億円 上期+80億円 下期-1億円

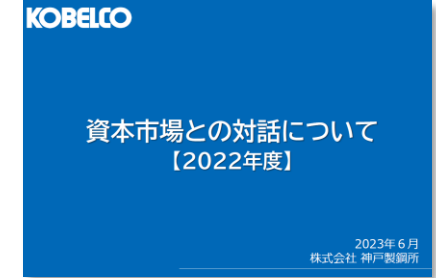
◀石炭貿易統計価格と当社購入価格の推移（イメージ）▶



資本市場との対話

当社は持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けて、資本市場との対話を積極的に行っており、その内容を、ホームページに開示しています。

[capital_markets_22.pdf \(kobelco.co.jp\)](https://www.kobelco.co.jp/capital_markets_22.pdf)



社会からの評価（主なもの）

◆FTSE4Good Index Series (2021年6月～)



FTSE4Good

◆FTSE Blossom Japan Sector Relative Index (2022年3月～)



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

◆FTSE Blossom Japan Index (2021年6月～)



FTSE Blossom
Japan

◆MSCI JAPAN ESG SELECT LEADERS INDEX ※ (2022年6月～)

2023 CONSTITUENT MSCI JAPAN
ESG SELECT LEADERS INDEX

◆MSCI JAPAN EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN) ※ (2022年12月～)

2023 CONSTITUENT MSCI JAPAN
EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN)

◆CDP (2020年12月～)



「気候変動」で「A-」の評価を
3年連続で獲得

※THE INCLUSION OF KOBE STEEL, LTD. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF KOBE STEEL, LTD. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI.

MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.



当社は「あしたにいいこと、KOBELCOと。」をキャンペーンメッセージとした新たな企業CMを制作し、7月25日より特設サイトやYouTube公式チャンネルにて公開しています。

KOBELCOならではの多様な人材・事業・技術のかけ算を通じて、社会課題の解決に挑み、ステークホルダーの皆様にとって「かけがえのない存在」であり続けることを目指すとともに、こうした私たちの姿勢や思いをより多くの皆様に届けていきたいと考えています。是非ご注目ください。

映像／特設サイト リンク先URL

「あしたにいいこと～技術のかけ算～篇（1）」（30秒Ver.）：
<https://youtu.be/JnvdWCODWVI>

「あしたにいいこと～技術のかけ算～篇（2）」（30秒Ver.）：
https://youtu.be/u_h_x94HokY

メイキング映像：<https://youtu.be/3KIt6SOW-vE>

特設サイト：<https://www.kobelco.co.jp/special-contents/>

KOBELCOが 実現したい未来	「KOBELCOの使命・存在意義」の実行を通じて実現したい社会・未来
	安全・安心で豊かな暮らしの中で、 今と未来の人々が夢や希望を叶えられる世界。
KOBELCOの 使命・存在意義	KOBELCOグループの社会的存在意義であり、果たすべき使命
	個性と技術を活かし合い、 社会課題の解決に挑みつつける。
KOBELCOの 3つの約束	KOBELCOグループの社会に対する約束事であり、グループで共有する価値観
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します 2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます 3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します
KOBELCOの 6つの誓い	「KOBELCOの3つの約束」を果たすため、品質憲章とともに全社員が実践する行動規範
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高い倫理観とプロ意識の徹底 2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献 3. 働きやすい職場環境の実現 4. 地域社会との共生 5. 環境への貢献 6. ステークホルダーの尊重

品質憲章

将来見通しに関する注意事項

- ◆ 本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまふ可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。

- ◆ 上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。
 - 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
 - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - 為替相場の変動
 - 原材料のアベイラビリティや市況
 - 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
 - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化